

Cantabile

2018. March

Vol.13

発行

山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会音楽部会

発行日

平成30年 3月31日



四ブロック輪番にこだわる理由

会長 三 森 聡

今年度の東北音研秋田大会では、県庁所在地である秋田市が開催地であった。東北各地からの交通の便を考慮し、今年度より東北音研は毎回秋田市にしていこうという。

本県では、四ブロック（山形・置賜・庄内・最北）輪番を原則とし、東北音研の二年前より本音連の事業を開催地で実施するようにしている。その目的は、開催地になる子ども達の音楽力と教師の音楽指導技術の向上にある。

具体的事業は、合唱指導者講習会と音楽科教育実践研修会、また、県内指導主事をはじめ音楽教育実践者を招いての研究会になる。

今から、二十五年前のことであったが、東北音研の開催地を置賜地区と予定していたところ、直前になって当時の担当理事より開催は不可能との申し出があった。子ども達をはじめ教師の力量不足がその理由だった。結局、山形市での開催を余儀なくされた。そのことを後で知った置賜地区の関係者が、「また山形市での開催になるのか！東北音研を通して子ども達の音楽が向上し、置賜地区の音楽教育の活性化にもつながっていくと期待していたのに……。」と強い憤りの声が上がった。

私にとって、このことは忘れられない出来事として今でも脳裏に焼きついている。それだけに、例えば交通の便が悪くとも、東北音研の開催を県庁所在地に限定することなく、四ブロックで開催していきたいと考えている。

次年度の東北音研庄内大会を見据え、今年度酒田市でプレ大会を開催し、県内から九十名もの参加者があった。思いを追究する子ども達の主体的な姿、自分ごとのように切磋琢磨して学ぼうとする分科会での教師の姿を目の当たりにし、酒田飽海地区の音楽教育力が高まっていることを確信した。

平成29年度 山形県音楽教育研究協議会 酒田・飽海大会 (平成30年度 第66回東北音楽教育研究大会プレ大会)

平成29年11月17日(金) 小学校・全体会：酒田市立松原小学校
中学校：酒田市立第二中学校

大会主題 つなぎ合おう 人・思い・音楽

授業について
組曲「展覧会の絵」から「キエフの大きな門」を聴き、音色・旋律・強弱・リズムなど、楽曲の特徴から感じられる曲の雰囲気を感じ、グループで話し合った。指導者は、より深い思考のために、絵や作曲の背景などの情報をタイミング良く効果的に提示した。
生徒たちは、曲が作られた背景と作曲者の意図や思いを結びつけて考えたり、絵画と音楽を関連づけて表現の豊かさやおもしろさにせまることができた。



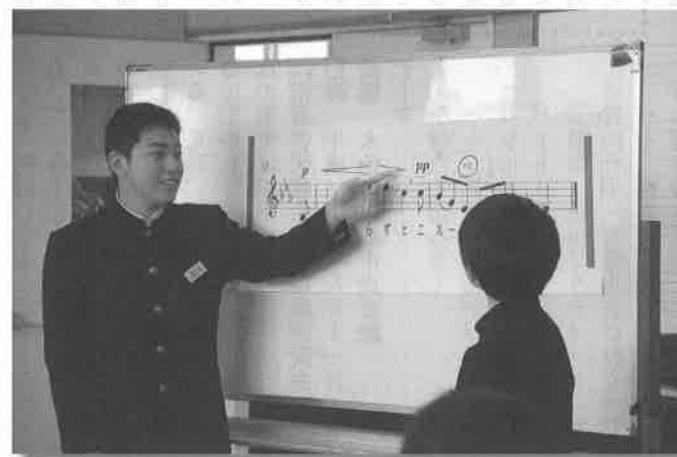
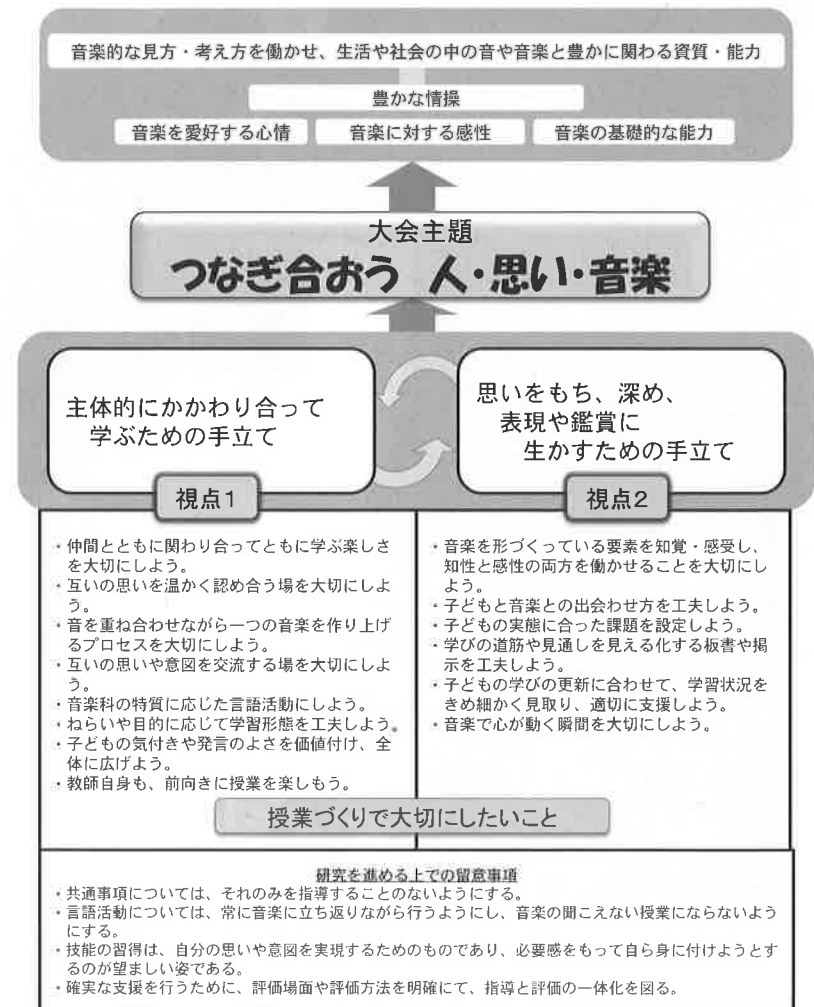
授業者 石川 結実 教諭
(酒田市立第二中学校)
題材名 曲の良さを感じ取ろう
題材の目標
楽曲とその背景・作曲者の意図・絵画を関連づけながら、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じながら、音楽の良さを根拠を持って批評し味わって鑑賞することができる。

中I【鑑賞】 第三学年

授業者 石垣 裕子 教諭
(酒田市立黒森小学校)
題材名 言葉でリズムアンサンブル
少年歌舞伎のCMをつくらう
題材の目標
リズムの組み合わせを工夫したり、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みをいかしたりして言葉のリズムアンサンブルをつくる。
授業について
黒森小学校は地域の伝統芸能である黒森歌舞伎を継承するために、四年生以上の男子が少年歌舞伎に取り組んでいる。その歌舞伎を

小I【音楽づくり】 第三・四学年

研究構想図



授業者 齊藤 るり 教諭
(酒田市立東部中学校)
題材名 歌詞の情景を思い浮かべながら、表現を工夫して歌おう
題材の目標
「早春賦」の情景や思いを感じ取りながら、曲想を生かした音楽表現を工夫し、その表現に必要な技能を身につけて歌う。
授業について
「早春賦」の歌詞の内容を手がかりにして、音色や強弱、速度などをどのように工夫して歌えば情景が伝わるか、個々グループ全体の流れで考えた。
四グループが一段ずつ担当し、「こう歌いたい」という思いや意図を伝え合った。最後は全員で思いを共有することで詞の世界に近づいていった。

中II【歌唱】 第三学年

授業者 齊藤 るり 教諭
(酒田市立東部中学校)
題材名 歌詞の情景を思い浮かべながら、表現を工夫して歌おう
題材の目標
「早春賦」の情景や思いを感じ取りながら、曲想を生かした音楽表現を工夫し、その表現に必要な技能を身につけて歌う。
授業について
「早春賦」の歌詞の内容を手がかりにして、音色や強弱、速度などをどのように工夫して歌えば情景が伝わるか、個々グループ全体の流れで考えた。
四グループが一段ずつ担当し、「こう歌いたい」という思いや意図を伝え合った。最後は全員で思いを共有することで詞の世界に近づいていった。



来年度の東北音研に向けて、新指導要領の内容も踏まえながら、どのような授業づくりをしていけば良いかお話いただいた。
新指導要領では、「楽しさ」が各学年の目標から教科の目標に格上げされ、より重視されている。そのような中で、「楽しさ」を大前提としながら「主体的、対話的で深い学び」を実現するためには、「共通事項」を手がかりにして思考・判断・表現することが重要であることを改めて確認することができた。
人工知能(AI)の発展と共に、豊かな感性や豊かな情操を育むことや協働的に学ぶことがより一層求められている今日、音楽科だからこそそれが可能である、という先生のお言葉からは、研究同一人同、勇気づけられた。
大宮先生には、各授業者に対してもきめ細やかにご指導いただきました。心より感謝申し上げます。



「これからの授業づくり
東北音研に向けて」
県教育センター指導主事
大宮 裕一 先生

全体指導

授業について
ブラームスの「ハンガリー舞曲第五番」(オーケストラ版)を聴き、四つの旋律の特徴を感じ取り、なぜそのように感じ取ったのか、音楽を形づくっている要素に着目しながら聴き取る活動を行った。指導者は、図形楽譜を指でなぞったり、これまでに学習した音楽の要素を想起したりしながら聴いたりできるように、教材やワークシートを工夫した。
児童は、真剣に耳を傾けて音楽の要素を聴き取るうとしていた。それらの要素が、音楽の良さと面白さを生み出していることを理解することができた。

題材の目標
曲想とその変化を感じ取りながら、旋律の特徴、反復や変化、強弱や速度などによる楽曲の構造を理解して聴き、表現に生かす。



授業者 今 清香 教諭
(酒田市立泉小学校)
題材名 曲想を味わおう
授業者 今 清香 教諭
(酒田市立泉小学校)

小II【鑑賞】 第六学年

高等学校

期日 平成29年6月15日(木) 16日(金)
会場 山形県立山形西高等学校
山形学院高等学校

内容

○研究授業

音楽Ⅰ「歌唱による表現」
山形県立山形西高等学校

吉田 朋世 教諭

○研究発表

生徒による校内コンサートの取り組み
部活動・進路指導・授業を関連させて
山形県立鶴岡北高等学校

百瀬 敦子 教諭

○講演・演奏

「パイプオルガンについて」
洗足学園音楽大学講師・オルガン奏者

萩野由美子 先生

音楽教育の原点である歌唱指導について学び直した。望ましい発声法により音楽の諸要素を捉えながら表現を工夫させようと取り組まれ、明るく前向きに活動する生徒の意欲や集中力が高まっていく様子が伺え、高いレベルの研究授業をみることができた。研究発表では、全国レベルの合唱に育て上げられた百瀬先生の日頃実践されていることについて発表があった。鶴岡北高は芸術3科目とも教諭が配置されており、学校の特色として芸術活動が位置付けられていることや、地域の人々や中学生を迎えて生徒によるコンサート活動を続けていることが、今日の合唱を築かれてきたと思われる。

講演会では、日頃なかなか経験することのできないパイプオルガンについて、実際パイプに触れたり吹いたりしながら勉強し、パイプオルガンの名曲であるトッカータとフーガニ短調を鑑賞した。目の前にそびえ



る大きなパイプオルガンから立体的に音が聞こえ、生で聴く経験が少ない受講者にとって、感動的な瞬間を味わうことができた。また、研究演奏としてパイプオルガンの伴奏で合唱することができ、至福の時間を過ごすことができた。

山形県内のホールにパイプオルガンが設置されているところは無いが、改めて音楽に携わる者として貴重な体験をすることが出来て、意義深い研究大会となった。

小学校管楽器教育研究会

小管研は、管楽器の指導に当たる小学校の先生方の交流や研修の場として、平成十年に発足。平成十二年に東北小学校管楽器教育研究大会を酒田市の浜田小学校にて開催。平成十九年度より県音連小学校部会長が県小管研の会長を兼務し今日に至っている。



本県が受賞した海鉾賞の表彰状とカップ

昨年度は本県の指導者研修の名績に対して、名誉ある海鉾義美賞を頂いている。

今年度、県内すべての小学校を対象に調査を行ったところ、約九十の学校において、吹奏楽部、または金管バンド、マーチング等の管楽打楽器の活動が盛んに行なわれて

いることが分かった。反面、担当する先生方が日々指導に悩みながら子供たちに向き合っている実態も分かってきた。東北小管研が主催している研修や発表会、研究大会の案内は、関係小学校に随時メール等で配信しており、毎回、山形県からも参加している。是非、この機会を有効に活用し、指導に生かして頂ければと思う。なお、今年度の事業は以下の通り。

【指導者研修会及び授業研究会】

日時 平成二十九年八月十一日(金)

会場 大仙市大曲市民会館

テーマ

「学ぼう！語ろう！」

夏こそ教師がパワーアップ」
○バンド育成と日常の活動に役立つレパートリー

(演奏 秋田ブリティッシュプラス)
○校内行事・音楽集会に役立つレパートリー(座間吉弘氏)

○「管楽器を活用した音楽科授業についての模擬提案」

【第二十四全日本小学校管楽器教育研究大会東北大会】

【東北小学校管楽器教育研究大会秋田大会】
日時 平成二十九年十一月十七日(金)

会場 大仙市立花館小学校

大会主題

歓管・楽学Ⅲ 楽しいから、「音楽」。

くぼくらの夢を音楽にのせて」

○ウェルカム演奏

大仙市立中仙小学校金管バンド

○音楽集会 大仙市花館小学校全校児童
○公開授業

「ひょうしを感じてリズムをうとう」
(第二学年) 他

○研究演奏

大仙市立大川西根小学校全校児童

○パネルディスカッション

「管弦打楽器を活用したこれからの音

楽教育について

・熱田庫康氏

(音楽教育駆け込み寺主宰)

・後藤 洋氏(作曲家)

千葉敏弘氏(仙台市立向陽台小)

【東北小学校バンドフェスティバル】

日時 平成三十年一月二十七日(土)

会場 仙台サンプラザホール

今年度は三十七団体(宮城県を中心に東北の各県から参加。北海道からは友情出演もあり)が出演。

※本県バンドフェスティバルへの推薦枠は原則3校としており、①村山・最上②庄内③置賜地区からそれぞれ出演をお願いしている。推薦方法は各地区での発表会などを参考に行っているが、コンクールに参加している学校との兼ね合いや旅費等の補助支援がないことなどから、推薦されても辞退せざるを得ない学校もあるのが現状である。バンドフェスティバルの趣旨は子供たちの自主性を培い豊かな情操を育むことにある。子供たちが学びの機会をさらに有効に活用されることを期待したい。今年度は山形市立鈴川小学校と酒田市立南平田小学校が出演し、素晴らしいパフォーマンスを披露した。(出演予定の山形市立南沼原小学校はインフルエンザ流行のため残念ながら辞退)

担当 高橋(滝山小)

あとがき

いよいよ来年度、東北音研庄内大会が開催されます。今年度はブレ大会が行われましたが、この研究内容を広く共有し、私たちの財産としていきたいと感じています。「つなぎ合おう 人・思い・音楽」のテーマのもと、来年度に向けてますます研究が深まるよう、バックアップしていきたいものです。

担当 佐藤(山形西小)
斎藤(山形十中)